

2023年3月23日

本社所在地 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 23 番 5 号
上場会社名 株式会社サニーサイドアップグループ
代表者 代表取締役社長 次原 悦子
(コード番号: 2180)
問合せ先 コーポレート本部 本部長 大竹 貴也
電話番号 03-6894-3232

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポート発行に関するお知らせ

モーニングスター株式会社より、当社に関するエクイティ・リサーチレポートが発行されましたので、お知らせいたします。
なお、同レポートは下記リンクよりご覧いただけます。

記

1. レポート概要

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポート (2023年3月23日発行)

https://portal.morningstarjp.com/stock/er_report/pdf/er2180_230323.pdf

2. 会社概要

会社名 : 株式会社サニーサイドアップグループ
代表者 : 代表取締役社長 次原 悦子
所在地 : 東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目 23 番 5 号 J P R 千駄ヶ谷ビル
設立 : 1985 年 7 月
資本金 : 547 百万円
上場市場 : 東京証券取引所プライム市場 (証券コード : 2180)
U R L : <https://ssug.co.jp/>

以上

(本件に関するお問合せ先)

株式会社サニーサイドアップグループ コーポレート本部 経営管理部 経営企画グループ TEL 03-6894-2241

企業のPR支援やブランディングなど展開

投資判断 (3/22)

サニーサイドアップグループ (2180・東証プライム)

新規 Overweight

株価	投資単位	時価総額	昨年来高値	昨年来安値	PER(予)
570円 (3/22)	100株	86.6億円 (3/22)	804円 (22/4/5)	501円 (23/1/16)	13.3倍 (3/22)

引き合い多く新たな成長局面へ

■第2四半期累計決算は過去最高

23年6月期2Q累計(22年7-22年12月)の連結業績は、売上高10,828百万円(前年同期比24.3%増)、営業利益851百万円(同74.7%増)となった。コロナ禍で20年6月期決算は苦戦したものの、その後はV字回復している。今期についても業績好調で、第2四半期累計ベースで売上高、利益とも過去最高を更新した。店頭など消費者とのコンタクトポイントにおいて購買・成約の意思決定を促すノウハウ、ソリューションを提供するセールスアクティベーション事業が特に好調。一方、フードブランディング事業は米国ハワイ州からの事業撤退が完了、国内売上が好調で同事業は全体として黒字を回復した。マーケティング&コミュニケーション事業はさらなる成長に向け、人的資本への投資を強化している。

■事業投資を含めた積極的な新事業展開も

23年6月期の通期業績予想は売上高16,500百万円(前期比1.9%増)、営業利益1,000百万円(同30.2%増)を据え置いている。ただ、通期予想に対する第2四半期累計の営業利益の進捗率は85.2%と高く、超過達成する可能性は十分にある。

当社はPRを軸に、特定の業種に限定することなく、プロモーション、イベント、ブランディングなど、ニーズに応じてさまざまなソリューションを提供している。現在ではPR領域から、より上流のマーケティング・コミュニケーション領域へと、提案範囲を拡大しており、それが利益率向上にもつながっている。

コロナ禍からの回復、円安の影響もあって、直近では国内だけでなく海外企業からの問い合わせも急激に増えている。グローバル・クライアント向け売上高も急増し、この1年間の新規クライアント上位30社におけるグローバル・クライアントの売上構成比は70%にもなった。こうしたニーズを取りこぼさないよう、人材拡充を図り、グローバル・クライアントへの対応を強化している。人材については、性別・年齢・



国籍などの属性にかかわらず、機会を等しく提供することを基本方針とする。

一方、世界には大きな可能性を持つ、まったく新しいプロダクト、ソリューションがある。そういった企業が「モノ・ヒト・コト」を社会に大きく広めることは難しいが、当社にとっては得意分野となる。今後、有望なプロダクト、ソリューションがあれば、当社の知見、ノウハウを生かし、従来の受託型サービスとしてではなく、事業投資も含めた積極的な展開を行う意向。フェムテック、ウェルビーイングなど、戦略的に事業領域を定めた事業展開を視野に入れている。

株価は22年4月5日に昨年来高値804円を付けたが、その後は上値の重い展開が続く。予想PER(株価収益率)は13倍程度で、競合の2社と比較して割安感が顕著。想定株価レンジはモーニングスターの5年業績予想をベースにDCF(ディスカウント・キャッシュ・フロー)法及び23年6月期予想EPS(1株利益)にPER20倍程度で算出した800-900円とする。株価に上値余地が大きいことから、投資判断は新規「Overweight」とする。

(梅村 哲哉)

業績動向 (3/22時点)

		売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)
21年6月期	実績	15,356	9.0	519	23.6	666	142.2	298	▲241.9	19.8
22年6月期	実績	16,190	5.4	767	47.8	1,284	92.8	581	95.0	38.6
23年6月期	会社予想	16,500	1.9	1,000	30.2	1,020	▲20.6	640	10.2	42.9
	MS予想	17,000	5.0	1,150	49.9	1,170	▲8.9	670	15.3	44.1
24年6月期	MS予想	20,000	17.6	1,500	30.4	1,520	29.9	870	29.9	57.3

■会社概要

基幹事業のマーケティング&コミュニケーション事業、セールスアクティベーション事業を中心に、オールデイダイニング「bills」展開のフードブランディング事業、新規事業開発のビジネスデベロップメント事業を展開している。PR (Public Relations)、ブランディング、イベント企画など、情報を伝える・広げることが得意とし、企業のPR活動支援やブランディング、イベント企画、スポーツ選手などのマネジメントが主力。大きな話題を創出する企画力、強力なメディアリレーション力、契約アスリートや文化人の肖像権を活用したコンテンツが強みで、40年近くにわたり幅広い分野で実績を積み重ねてきた。「PR発想」をもとに当社の各事業は生まれてきた経緯があり、事業間、グループ会社間の連携によるシナジーを発揮することで、成長力はより高まっている。

■事業環境と展望

当社の多岐にわたる事業の中で、PR事業については公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会のPR業実態調査によると、PR業全体の売上高(2020年度実績)は推計約1,111億円だった。前回調査(2018年度)の約1,290億円を下回っているものの、これはコロナ禍の影響が大きく、21年度以降は回復に転じている。一方、当社の場合は国内にとどまらず、グローバル・クライアントからの引き合いが急増している状況で、人員拡充によりさらなる事業拡大が期待される。フェムテック、ウェルビーイングなどの分野において新規事業展開から、さらなる事業の多様化も推進する。

リスク要因

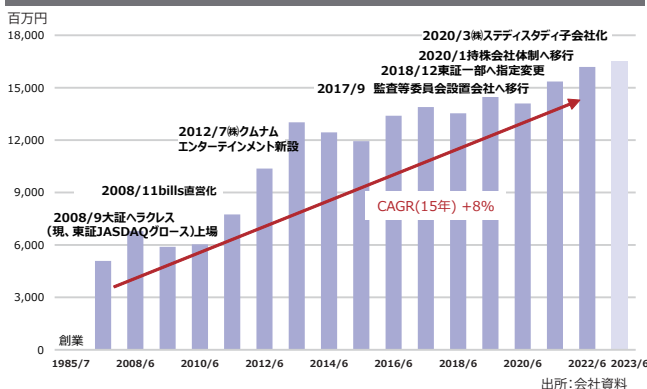
企業のマーケティング費用は景気動向によって増減する傾向があり、当社のマーケティング&コミュニケーション事業、セールスアクティベーション事業もその影響を受ける。また、当社はテレビ、新聞、雑誌など、メディアリレーションにおいて強みを発揮するが、インターネットなど新しいメディア、スマートフォンなど新しいデバイスの普及もあり、既存メディアにこだわらず、新しいメディアとの関係構築が重要にな

セグメント区分				
セグメント	マーケティング & コミュニケーション事業	セールスアクティベーション事業	フードブランディング事業*	ビジネスデベロップメント事業
事業内容	PRを軸とした各種コミュニケーションサービスの提供	店頭における購買・契約促進のための戦略施策の提供 IP (タレントやキャラクター等の知的財産)を活用したセールスプロモーションおよび物販施策	『bills』のブランディングおよびライセンシング 『bills』の海外店舗のプロデュース、ブランディングおよび運営	既存の労働集約型・変換型のビジネス領域に留まらない新規事業の開発推進
構成子会社	SUNNY SIDE UP KUM-NAMU ENTERTAINMENT steady study SCRAMBLE airside	WISE Integration	FLYPAN SUNNY SIDE UP KOREA	SUNNY SIDE UP PARTNERS Good & Co. Agile

*フードブランディング事業において、米国ハワイ州における事業から撤退し、bills Waikiki LLCの当社持分を第三者に譲渡するとともに、SUNNY SIDE UP INTERNATIONAL, INC.の清算手続きを完了しております。

出所:会社資料

サニーサイドアップグループの歩み



出所:会社資料

株主還元 (3/22時点)

■ 配当の状況

	1Q末	2Q末	3Q末	期末	年間
21年6月期 実績	—	—	—	6	6円
22年6月期 実績	—	—	—	12	12円
23年6月期 会社予想	—	—	—	13	13円

■ 株主優待

なし

競合他社比較 (赤太字は競合他社に比べ優位な数値) (3/22時点)

	サニーサイドアップ グループ (2180・東証プライム)	シグマクス・ ホールディングス (6088・東証プライム)	メンバーズ (2130・東証プライム)	
基本事項	株価	570円	1,115円	1,310円
	投資単位	100株	100株	100株
	最低投資金額	57,000円	111,500円	131,000円
	決算月	6月	3月	3月
株価指標	PER(予)	13.3倍	23.4倍	20.1倍
	PBR(実)	3.2倍	4.6倍	2.9倍
	配当利回り(予)	2.3%	1.3%	2.3%
成長性	売上高成長率(予)	1.9%	9.9%	15.8
	営業利益成長率(予)	30.2%	15.3%	▲36.0%
	EPS成長率(予)	11.2%	20.2%	▲39.5%
収益性	売上高営業利益率(予)	6.1%	18.5%	6.9%
	自己資本当期純利益率(実)	23.4%	21.1%	26.7%
	総資産経常利益率(実)	17.5%	22.2%	19.9%
	自己資本比率(実)	35.7%	70.3%	56.7%
財務安定性	デット・エクイティ・レシオ(実)	63.9%	0.1%	10.1%
	流動比率(実)	159.3%	439.3%	204.4%

ビジネスコンサルティングのシグマクス・ホールディングス（6088）、デジタルビジネス支援のメンバーズ（2130）を比較対象として挙げた。

■成長性

20年6月期は新型コロナの影響で下期にクライアントのマーケティング活動が縮小し、売上高、利益とも大きく落ち込んだ。その後、クライアントのニーズ自体が変化したものの、当社は持ち前の総合的な提案力、多彩なニーズに対応した幅広いソリューションを生かした事業展開を推進、収益力は21年6月期以降に急速に回復している。22年6月期は過去最高の売上高、利益を達成し、23年6月期も連結売上高16,500百万円（前期比1.9%増）、営業利益1,000百万円（同30.2%増）を見込んでいる。23年6月期の営業利益成長率は競合内トップ。さらに、今後も既存事業の継続的な成長が見込めるほか、新規事業の効果が表れ、数年後には成長力が顕著的に伸びる観測もある。

■収益性

22年6月期は助成金収入など営業外収益があり、経常利益を押し上げる特殊要因となった。一方、23年6月期はフードブランディング事業の損失が解消されることで、22年6月期と比較して収益力が向上する見通しにある。その半面、将来の成長に向け、人的資本や新規事業などに対し積極的な投資を実施する方針。売上高営業利益率は3社の中で下位であるのは、その影響とみられる。

■財務安定性

2008年9月の上場以降、自己資本を着実に積み上げている。22年6月期の自己資本比率は35.7%で、前期の31.8%から上昇した。デット・エクイティ・レシオは63.9%、流動比率は159.3%。有利子負債は減少しており、特段の問題はない。23年6月期の配当は期末一括13円（前期は同12円）と増配し、配当性向は30.3%になる見込み。

モーニングスター株式会社
株式分析部 アナリスト
03-6229-0078

梅村 哲哉

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートの読み方

特徴

(1) 第三者機関として中立的な立場を重視

モーニングスター・エクイティ・リサーチレポートは、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場を重要視し、客観的な比較・評価情報の提供に努めています。モーニングスターがカバーする全銘柄に対し、アナリスト個人の見解に加え、複数のアナリストから成る銘柄評価委員会の意見を反映し、投資判断・想定株価レンジ・業績予想を決定しています。

(2) カバー銘柄のユニバース

カバー銘柄は下記対象銘柄から銘柄評価委員会が選出しています。

【銘柄選定基準】

- アナリストのカバー率が低い国内新興市場上場銘柄
- 個人投資家からの人気が高い銘柄（各オンライン証券のデータを参考）
- 時価総額を考慮（50億円程度以上を目安）
- 整理、監理銘柄や継続疑義、債務超過銘柄を除く

(3) 3段階の投資判断

カバー銘柄に対する投資判断は、モーニングスターの各アナリストによる調査・取材・分析を基に銘柄評価委員会の協議を経て決定しています。下記の基準を基に3段階（最上位から「Overweight」（オーバーウエート）、「Neutral」（ニュートラル）、「Underweight」（アンダーウエート））で予測しています。

Overweight（オーバーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上上回ると予測される場合

Neutral（ニュートラル）

今後、半年間の株価推移が現値水準の-15%～+15%にとどまると予測される場合

Underweight（アンダーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を15%以上下回ると予測される場合

モーニングスターでは業績見通しや財務状況、株価の値動きなどに関する見解の変更により、機動的に投資判断を変更します。ただし、影響力のある、新しい情報が明らかとなり、判断に時間を要する場合には投資判断を「Under Review」（保留）とする場合があります。また、取引時間中の投資判断の変更は行いません。アナリストが退職した場合などは投資判断をいったん「Suspension」（停止）とする可能性があります。

(4) 中期的な想定株価レンジ

向こう半年間で想定される株価のレンジを示します。株価指標などを用いた適正株価水準のほか、チャートのフシ目や直近の高値・安値、トレンドライン、移動平均線などテクニカル面や価格帯別出来高なども考慮して、中期的な上値メド、下値メドを決定しています。

項目説明

■ アナリストコメント

直近の業績動向や事業環境について、取材に基づいた評価をコメントしています。投資判断の根拠や業績予想に対する見方、今後の事業展望などを記載し、株式投資をするうえで最も重要な情報を掲載しています。また、読みやすさを考慮してテーマごとに2～4つのパラグラフにまとめているほか、重要なポイントを太字で強調しております。

■ 業績動向

通期決算の実績2期分と会社予想、およびモーニングスターの独自予想を今期、来期の2期分掲載しております。各銘柄への取材に加え、四半期毎での過去の業績傾向やセグメント毎での分析に基づいて業績数値を予測しています。

■ 会社概要

各銘柄がどのようなビジネスを展開しているのか、どこに収益源があるのかなどを詳しく解説するほか、今後どの事業に力を入れていくのか、中期的にはどのような事業展開を図っていくのかなどの中期的な見通しも取材を踏まえて掲載します。

■ 事業環境と展望

各銘柄が属する業界について、足元の状況や将来の成長性などの観点から解説します。競合他社への取材も実施することで業界全体を多方面から捉えるほか、業界団体のデータなど具体的な数値も掲載します。

■ リスク要因

各銘柄が有するリスクを解説します。事業面でのリスクに加え、業績面や財務面、株式市場独自のリスクなども考慮して様々な角度から見たリスクを示します。

■ 成長性

今期会社計画の売上高成長率、営業利益成長率、EPS成長率を競合他社と比較するほか、過去の経緯や主力事業の成長力などを評価します。

■ 収益性

今期会社計画の売上高営業利益率と前期実績の自己資本当期純利益率、総資産経常利益率を競合他社と比較するほか、過去からの収益性の変動などを評価します。

■ 財務安定性

前期実績の自己資本比率、デット・エクイティ・レシオ（＝有利子負債/自己資本×100）、流動比率（＝流動資産/流動負債×100）を競合他社と比較するほか、現預金やキャッシュフローなどの観点から財務安定性を評価します。